

給食だより10月

市川市立大野小学校

10月16日は世界食料デー

世界食料デーとは、世界の一人ひとりが、基本的인권である「すべての人に食料を」のもと、世界に広がる栄養不良や飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的とし、国連が制定した日です。

これを機に、食料問題の解決について調べたり、周りの人たちと話し合ってみたりして、解決に向けて何ができるのかを考えてみましょう。



たくさんの食品が捨てられている「食品ロス」

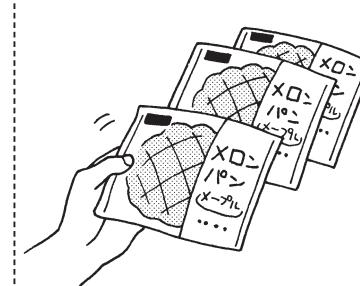
世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料供給量は、年間370万トン(2023年)です。一方、日本の食品ロスの量は、年間464万トン(2023年度)ですが、これは食料供給量の約1.3倍になります。一人ひとりができるところから、食品ロス対策を始めていくことが大切です。

身近なところから始める食品ロス対策

家にある食材をチェック



すぐ食べる時は手前から



賞味期限は過ぎても食べられる



すぐに食べられなくなるわけではないので、おとなと相談してから食べましょう。

事前のチェックで、無駄な買い物を防げます。



今年の「中秋の名月」は、9月ではなく、10月6日です。太陰太陽暦という昔の暦での8月15日が、本来の「中秋の名月」にあたるため、違う暦が使われている現在では、毎年付がかわります。

月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わりました。地方によっては、この時期にとれるさといもを供えることから、「芋名月」とも呼ばれているそうです。

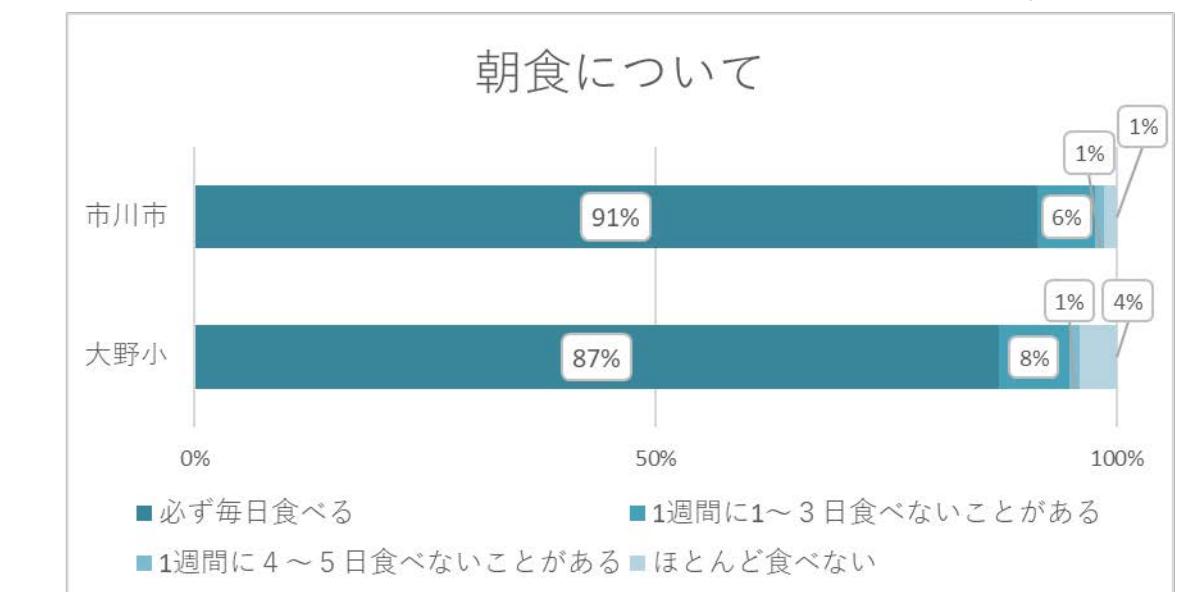
出典 『未来の食べもの大研究 食の歴史とこれからを探ろう』石川伸一監修 PHP研究所刊 ほか

世界手洗いの日



毎年10月15日は、世界手洗いの日です。2008年にユネスコなどによって、定めされました。石けんを使った手洗いは、ウイルスや細菌に対しての、もっとも手軽で効果的な対策です。

7月に「令和7年度朝食喫食状況及び和食に関する児童生徒の意識調査」を行いました。今月は朝食喫食状況の結果についてお知らせいたします。下記のグラフは市川市内の1年生から6年生の朝食喫食状況と、大野小学校の朝食喫食状況を示したものです。



大野小は市内の状況と比べて、朝食を欠食している児童が多い状況です。また、市内全体で言えることですが、学年が上がるにつれて朝食の欠食率が上がっています。朝ごはんを食べると、脳や体にエネルギーを補給したり、生活リズムをととのえたりする効果があります。栄養バランスのとれた朝食が理想ですが、朝から多くの料理をそろえるのは大変なことです。朝食を食べる習慣がないという人は、まずは何か食べることから始めましょう。

～簡単に食べられるもの～ パナナ ヨーグルト 納豆 パン